

EIRAKUEN



コラムインタビュー
介護スタッフ

Kさん
Oさん
Mさん

仕事と多忙な日々を乗り切る秘訣は？

年齢があがるにつれ、仕事には脂が乗ってくるものの、責任が重くなったり周囲への気遣いも多くなったりする。プライベートでも育児や介護の中心を担う女性はさらにストレスフルだ。そこで、永楽園で働く役職付アラフォー女性に、多忙な毎日を乗り切るための秘訣を聞いてみた。

「推し活！」と満面の笑みで答えたのは独身のKさん。「推し活」とは、アイドルなどの「推し」を応援する活動のこと。韓流トップアーティストである『東方神起』の大ファンで全国どこか韓国にまでライブに出かけているという。ライブでは喉が枯れるほど叫ぶ。

小学生の子を持つOさんは、子どもとバレーボールをしたり大会に応援に行ったりすることが生活のハリになっていくそうだ。自身もバレー経験者だということも指導にも熱が入る。「子どもが勝った時は周囲に自慢もさせてもらってスッキリします！」と笑う。

Mさんは、3人いる子どもや夫との時間を大事にしながらも、時間を作っては、道内中心にずっとファンである玉置浩二さんのライブに行くのが生き甲斐だという。ファンクラブにも入っている。ライブでは玉置さんの歌に酔いしれ、一緒に声をあげ、会場全体を楽しむ。Mさんいわく「最高です！」

こうして話を聞いてみると、それぞれのライフスタイルの中で共通していることがあった。自分の「好きなこと」がはっきりしていて、そこに没頭できる時間を自ら作り出していること。これはストレス解消になるだけでなく、さらに充実した仕事に結びつくのだろうと感じた。生活の潤いを生み出し存分に味わうこと。多忙な日々を乗り切る秘訣はここにあるようだ。

ライター：Chinami

社会が急速に進み、価値観も多様で混沌としていた昨今、「カッコいい」の基準も昔と同じには語れないだろう。結婚や子育て、仕事での昇格など、人生の大きな変化を迎えているだろう30代の男性スタッフ3人に、「カッコいい自分」でいるために意識していることについて聞いてみることにした。

勤務16年目のIさん。ドライブが趣味で、洗車にはこだわりがある。自分自身も清潔感は意識しているとのこと。ストイックな印象を受けた。いわく、「自分がカッコいいと思ったことはないが、カッコいい人は仕事が充実していると思う」。介護の仕事は楽ではないが、ここに貢献すると決めた以上やるからはちゃんとやりたいと言う。

Aさんは二人の子どもができてから生活の軸が子どもになったと言う。しかし、だからと言って自分自身は何も変わっていないと話してくれた。「こうなりたいという理想はあっても深刻にはならない。変にかっこつけたりせず、仕事も家庭も自由に楽しみたい」。あくまで自然体の自分に満足しているように見えた。

そして未婚者で独り身を謳歌しているTさん。仕事がない時は好きな時間に好きな事をしていけると言う。お酒を愛し、テレビを観たりパチンコに行ったりなど、辛い事もすぐに忘れることができる術を持っている。周囲のスタッフは「あわてている姿を見た事がない」と話す。マイペースな自由人、Tさんはそんな形容がよく似合う。

3人とも口を揃えて「カッコいい自分」を考えたことも意識したこともないと言うが、インタビュアの最後に、仕事のやり甲斐についてこう話してくれた。

「僕たちの仕事ってすごく感謝されるんですよね。人から『ありがとう』をこんなに言われる仕事ってないんじゃないかな？」
おそらく、感謝している周囲の人は彼らをかっこいいと思っているに違いない。「カッコいい自分」とは、意識してなるものではなく、自分軸でいることを他人が「カッコいい」と言う事で見えてくるものなのかもしれないと、彼らのインタビューを通じて感じた。

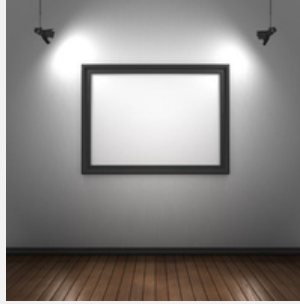
ライター：Chinami

STAFF COLUMN

仕事も趣味も！
カッコいい自分であるために

EIRAKUEN

コラムインタビュー
介護スタッフ
Iさん
Aさん
Tさん



EIRAKUEN STAFF COLUMN